

## 復活節第六主日

2014.5.25 7:30 ミサ

### ヨハネ 14:15-21

今日の福音も先週の主日のミサの中で聴いた、十字架の死を前にしたイエスの、弟子たちへの最後のおことばの続きです。

ヨハネ福音書の中で、十字架の死を前にした最後の晩餐の席で弟子たちに語られているこれらのイエスのことばは、あの晩餐の席に連なった弟子たちにとってだけではなく、聖書を通してそれを聴く全ての時代の信者たちにとって、自分たちの信仰の今を照らすイエスの遺言のように響いています。

「わたしは、あなたがたを孤児にはしておかない。あなたがたのところに戻ってくる。しばらくすると世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。私が生きていますので、あなたがたも生きることになる」。このおことばのとおり、十字架の上に死んで、復活されたイエスは弟子たちのところに戻って来て、復活されたご自分をお示しくださったのです。復活されたイエスによって、そのいのちの霊を吹き込んでいただいた弟子たちは、聖霊に満たされて、イエスを信じる新たないのちを生き始めたのです。このようにして、最後の晩餐のイエスの弟子たちに対する約束は実現したのです。福音書はその終わりに、復活されたイエスの弟子たちへの訪れを語っています。けれども、それが福音書が告げようとしていることの全てではありません。福音書は、弟子たちの宣教によって誕生した教会の中で、弟子たちのこのような経験を伝える信仰の書として書かれています。

復活されたイエスは父なる神のみもとに昇られ、この世に生きる私たちは、肉の眼をもってそのお姿を見ることは出来なくなったけれども、そのことによって、イエスは過去の歴史の闇の中に消え去ったのではない。復活されたイエスが弟子たちの中に吹き入れてくださったいのちの息吹、聖霊は、今やその弟子たちの宣教によってイエスへの信仰に導きいれられた私たちの中に、イエスの約束どおり、豊かに息づいている。そのことを、私たちはイエスへの信仰によって生きはじめた、私たちの新しい信仰のいのちの中で経験している。これが、聖霊降臨によって誕生した教会の働きを通して、その教会の信仰の中で洗礼を受けたキリスト者たちの、私たちの今に続く信仰による自己理解です。

今日も私たちが聴いたヨハネ福音書のみことばは、洗礼によって、教会に伝えられてきたイエス・キリストへの信仰を生きはじめた私たちの今が、私たち

全ての者のために十字架に架けられて死んだ神の子イエスに結ばれていることを示そうとしているのです。十字架の死を前にしてイエスが語られたおことばのすべては、私たちが見上げる、十字架上のイエスの私たちへの遺言であることを示そうとしているのです。その十字架のイエスは復活されたお方として、その復活のいのちの息吹である聖霊を通して、今も私たちに語りかけ、私たちのうちに留まり続けてくださるのです。日々の生活を生きる私たちが、私たちのうちにいてくださるイエスと出会うことができるのは、私たちのうちに働いてくださる聖霊が、私たちの心を開いてくださることによってです。聖霊の促しに従って、私たちのうちにいてくださるイエスに心に向けることが出来る時です。そのような聖霊の時を、私たちは祈りにおいて経験しているはずです。特に、私たちのうちに呼びかける聖霊の促しに従って教会に集い、同じ信仰を生きる仲間たちとともに、イエスの祭壇を囲んでミサをささげ、イエスのいのちの体である聖体をこの身にいただく時です。

「かの日には、わたしが父のうちにおり、あなたがたがわたしのうちにおり、わたしもあなたがたのうちにいることが、あなたがたにわかる。」イエスがこのおことばの中で言われている「かの日」とは、聖霊が私たちの心を燃え立たせてくださり、私たちのイエスへの信仰が私たちの中に目覚める日です。私たちの今日が、いつもそのような「かの日」となることを、復活のイエスが御父のもとから私たちもとへ遣わしてくださった聖霊に祈り求めたいと思います。

「わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」今日の福音の最後のおことばです。

「わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」。今日もこのミサの中でイエスのお体を受け、イエスが御父のもとから与えてくださる聖霊に満たされて、イエスを信じる私たちの日々がイエスのこの遺言に忠実であるよう祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高